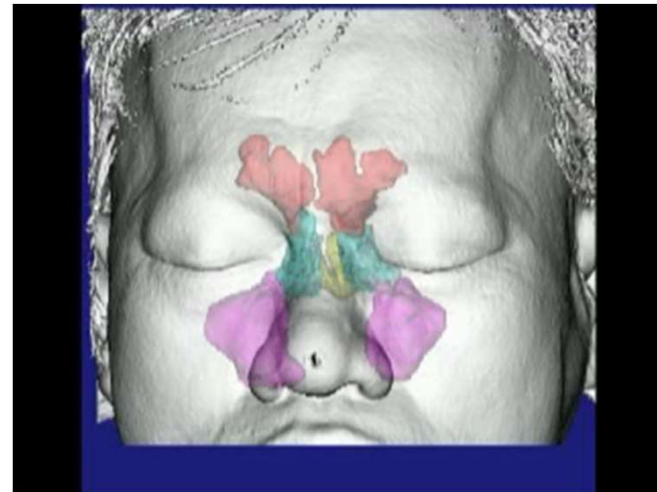
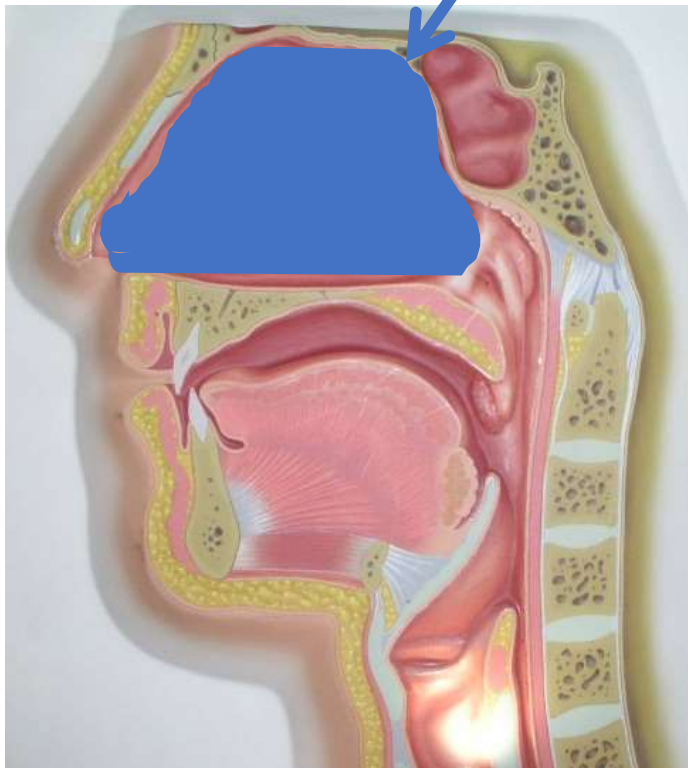


鼻副鼻腔癌

鼻副鼻腔癌

鼻副鼻腔：鼻腔、上顎洞、篩骨洞
前頭洞、蝶形骨洞はまだ規定されていない



鼻副鼻腔癌について 1

鼻副鼻腔に発生する腫瘍では、上顎洞、鼻腔、篩骨洞、前頭洞、蝶形骨洞などあるが、上顎洞から発生するものが最も多く、組織型では扁平上皮癌が最も多い

早期癌では症状に乏しいが、周囲組織に進展した場合には、鼻閉、膿性さらに血性鼻漏、頬部腫脹、眼症状（眼球突出、複視、など）、歯肉腫脹、頭痛など周囲組織への進展に応じた症状を認める

診断は鼻副鼻腔内の組織からの生検によって確定され、各種画像診断によって進展範囲を評価し病期を決定する

治療に関しては、手術を中心とした治療が標準である

鼻副鼻腔癌について 2

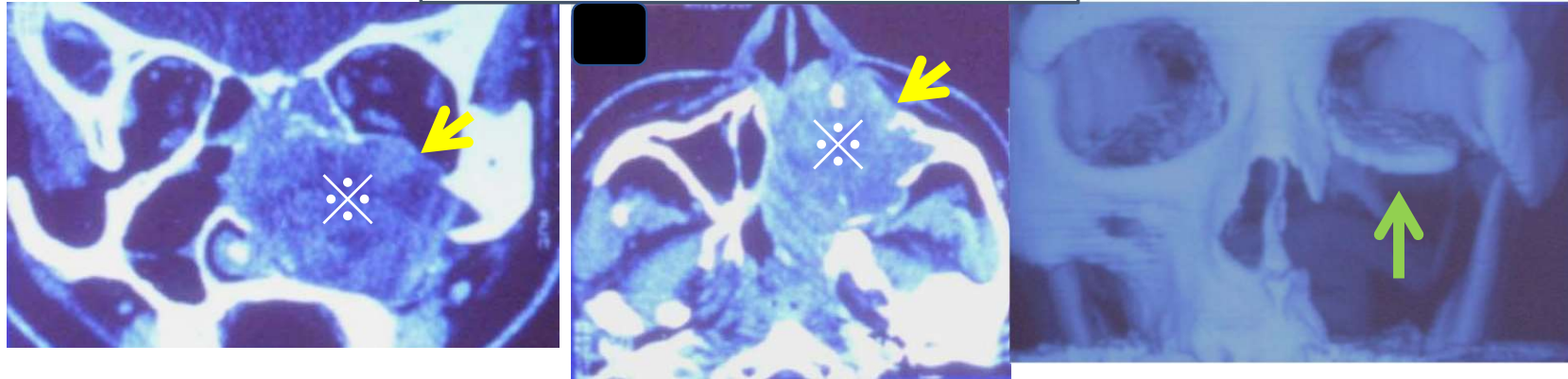
手術では腫瘍を一塊りに切除し、必要に応じて再建術を併用するが、鼻副鼻腔という解剖学的位置の特殊性のために周囲臓器（眼球および頭蓋組織など）に対する慎重な配慮が必要である

症例により、眼球摘出を伴う拡大上顎全摘術や頭蓋底手術を行う

上顎癌の栄養血管である顎動脈とその分枝に細い管（カテーテル）を挿入し抗がん剤を投与した後、還流血管内に中和剤を入れることで抗がん剤の全身的副作用を軽減する治療（超選択的動注化学療法）に放射線治療を併用すること（超選択的動注化学放射線療法、RADPLAT）で進行癌症例や、顔面の機能および形態維持を図る治療を行う施設が増加している

また局所に限局した症例に対しては、内視鏡下腫瘍切除も行われている

上顎癌 切除後、再建



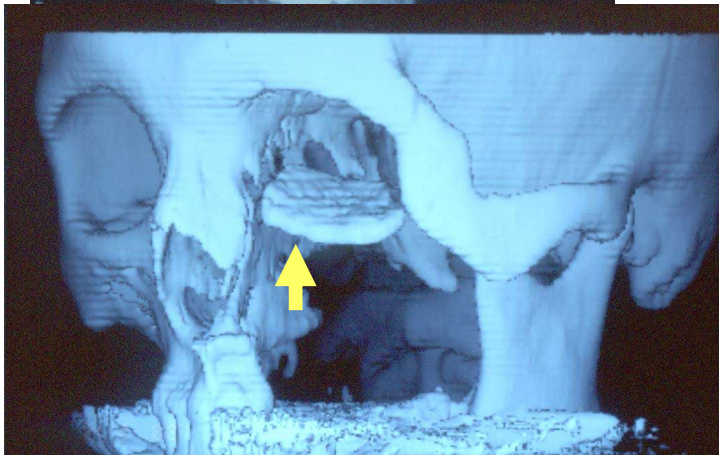
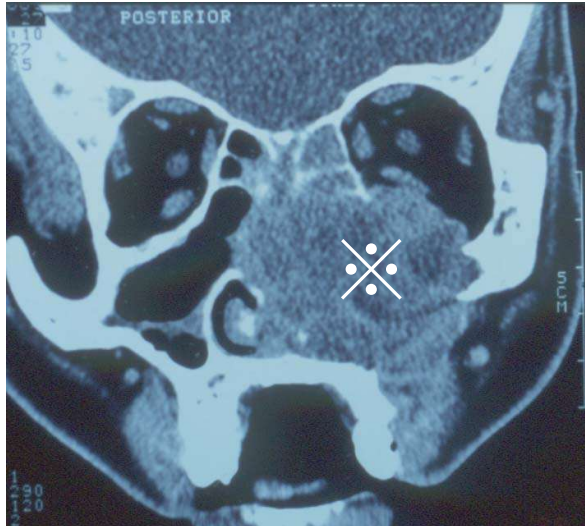
左上顎部にできた腫瘍のために左の眼の下の骨と口蓋部の骨も欠損しています

眼球を保存したうえで、上顎部の腫瘍を切除し、欠損した眼窩の下壁は頭蓋骨を一部使用し再建し、口蓋部はおなかの皮膚と筋肉、脂肪（腹直筋皮弁）を用いて再建し、さらにプロテーゼという特殊な入れ歯のようなものを用いて食事をしています

このように、悪い部分を手術により切除しますが、手術によっておこる形態と機能障害ができるだけ少なくなるような治療を行います

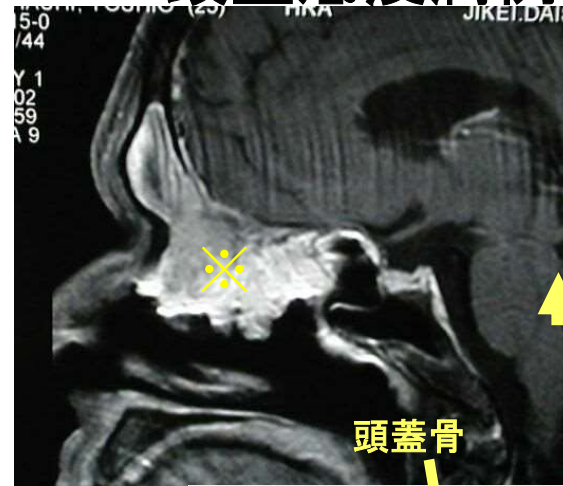
鼻副鼻腔悪性腫瘍の手術療法

進展例



上顎全摘術 - 眼窩底再建

頭蓋底浸潤例

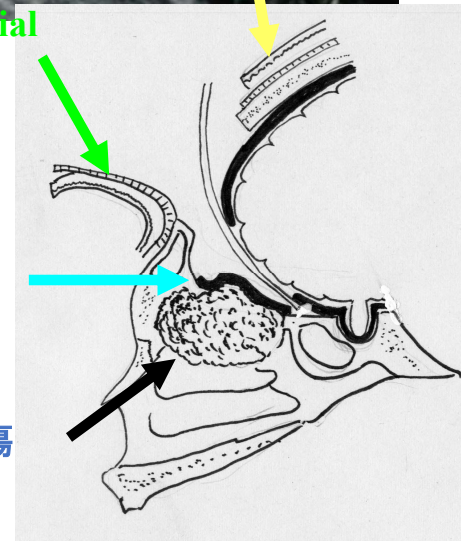


頭蓋骨

Pericranial
flap

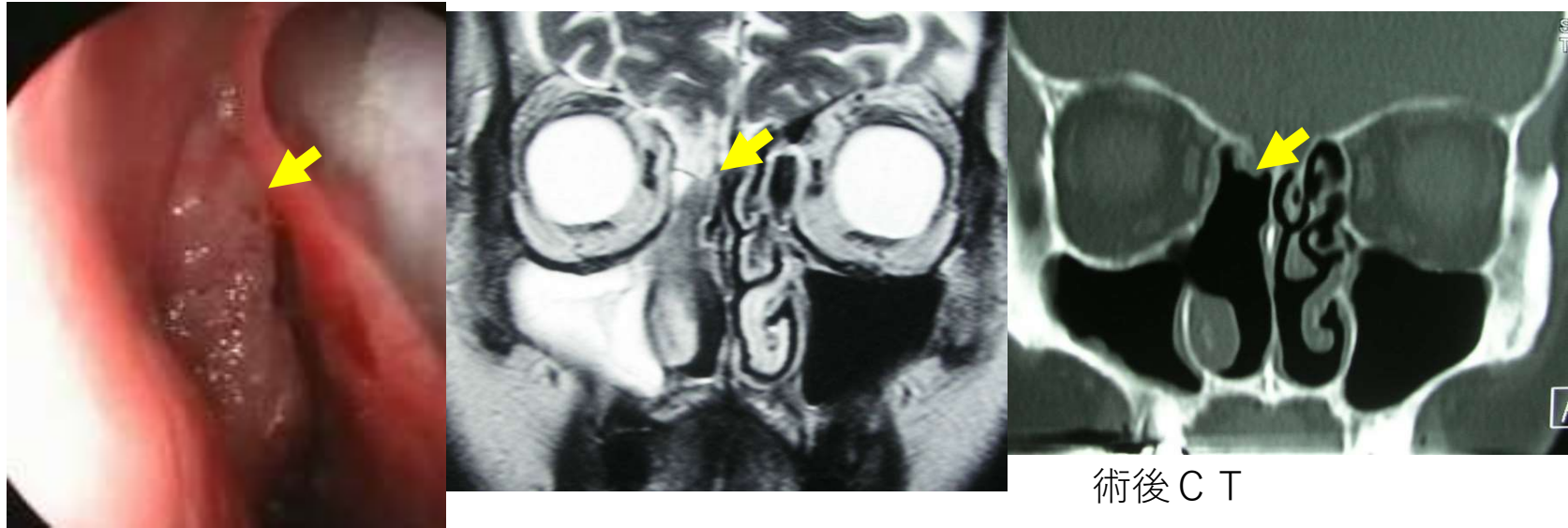
硬膜

腫瘍



前頭蓋底手術

鼻腔癌に対する内視鏡手術



鼻閉あり近医にて右鼻腔内に腫瘍性病変を指摘され紹介された方です

右中鼻道に腫瘍性病変を認め生検では扁平上皮癌を認めましたが、画像検査では外方の眼窩および上方の頭蓋底には及んでいませんでした

内視鏡を用いて、右中甲介を含めて腫瘍を一塊に切除しました

上顎癌 超選択的動注化学放射線療法

上顎部に発生した悪性腫瘍に対して、従来の拡大切除と再建による手術の代わりに放射線治療と化学療法を組み合わせる症例が増えています

足の付け根の血管からカテーテルという細い管を入れて、腫瘍を栄養する血管まで進めます

腫瘍の栄養血管（動脈）の先から抗がん剤を注入し、さらに戻ってくる血管（静脈）にも管を入れておき、ここから薬をいれて抗がん剤を中和することで、全身的な抗がん剤の副作用を軽減するようにします（超選択的動注化学療法）

さらに同時に放射線治療を併用（化学放射線療法）することで治療作用を上げ、顔面の形態と機能を保持した治療が行われています